

滋賀県内企業動向調査 ～2020年1-3月期の実績見込みと2020年4-6月期の見通し～ 景況感は7年ぶりのマイナス水準

(株)滋賀銀行のシンクタンクである (株)しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 北川 正義）では、県内企業の景況感を調査するために「滋賀県内企業動向調査」を四半期ごとに実施しています。このほど2020年1-3月期分の調査結果をまとめましたので、公表いたします。

【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査（2020年1-3月期）
- ・調査時期：2020年2月3日～27日
- ・調査方法：郵送またはFAXによる配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業908社
- ・回答数：303社（有効回答率33%）うち製造業123社、非製造業180社
- ・分析手法：DI（ディフュージョン・インデックス）
＝「かなり良い」と「やや良い」の回答割合から、
「かなり悪い」と「やや悪い」の回答割合を引いた指数を採用

【調査結果の要旨】

1. 現在の業況判断（P2～4）

- ・今回調査（20年1-3月期）での自社の業況判断DIは-20で、前回（19年10-12月期）の-14から6ポイント低下し、3四半期連続マイナス水準となり、13年第1四半期（-27）以来、実に7年ぶりに-20以下というマイナス水準となった。
- ・製造業は、前回の-24から4ポイント低下し-28となり、5四半期連続でマイナス水準となった。食料品、金属製品、電気機械、輸送用機械、その他の製造業はマイナス幅が拡大した。一方、化学はマイナス水準からプラス水準に回復、一般機械はプラス幅が大幅に拡大、繊維はマイナス幅が縮小した。
- ・非製造業は、前回の-5から9ポイント低下し-14となり、2四半期連続でマイナス水準となった。卸売、運輸・通信、その他の非製造業はマイナス幅が拡大、サービスはもちあいかからマイナス水準に低下、小売はマイナス幅がやや縮小も低迷が続いている。一方、建設、不動産はプラス水準を維持した。
- ・3カ月後（20年4-6月期）は、製造業は8ポイント低下の-36、非製造業は12ポイント低下の-26、全体では10ポイント低下の-30と、マイナス幅が拡大する見通しとなった。

2. その他の判断項目（P4～7）

- ・売上DI（前回：-10→今回：-23）は前回から13ポイント低下し、5四半期連続でマイナス水準（「減少」超過）となった。
- ・経常利益DI（-18→-24）は前回から6ポイント低下し、6四半期連続でマイナス水準となった。製造業（-33→-29）はマイナス幅がやや縮小も、非製造業（-6→-20）はマイナス幅が大幅に拡大した。
- ・製・商品の在庫DI（+5→+9）は4ポイント上昇した。
- ・販売価格DI（+4→-2）は6ポイント低下し、プラス水準からマイナス水準となった。
- ・仕入価格DI（+27→+21）は6ポイント低下。
- ・生産・営業用設備DI（-6→+2）は8ポイント上昇、15四半期ぶりにプラス水準。
- ・雇用人員DI（-33→-25）は、前回から8ポイント上昇するも、31四半期（8年弱）連続のマイナス水準。

3. 設備投資の実施状況（P8・9）

- ・設備投資を実施した（する）企業の割合は52%で、前回（51%）から1ポイント上昇。
- ・主な内容（複数回答）は、「OA機器の購入」（38%）が最多。次いで「生産・営業用設備の更新」（37%）、「車両の購入」（30%）、「生産・営業用設備の新規導入」（27%）、「ソフトウェアの購入」（22%）と続いた。

【お問い合わせ先】 (株)しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 北村（TEL：077-523-2245）

1. 自社の業況判断

(1) 自社の業況判断DI…景況感は6ポイント低下

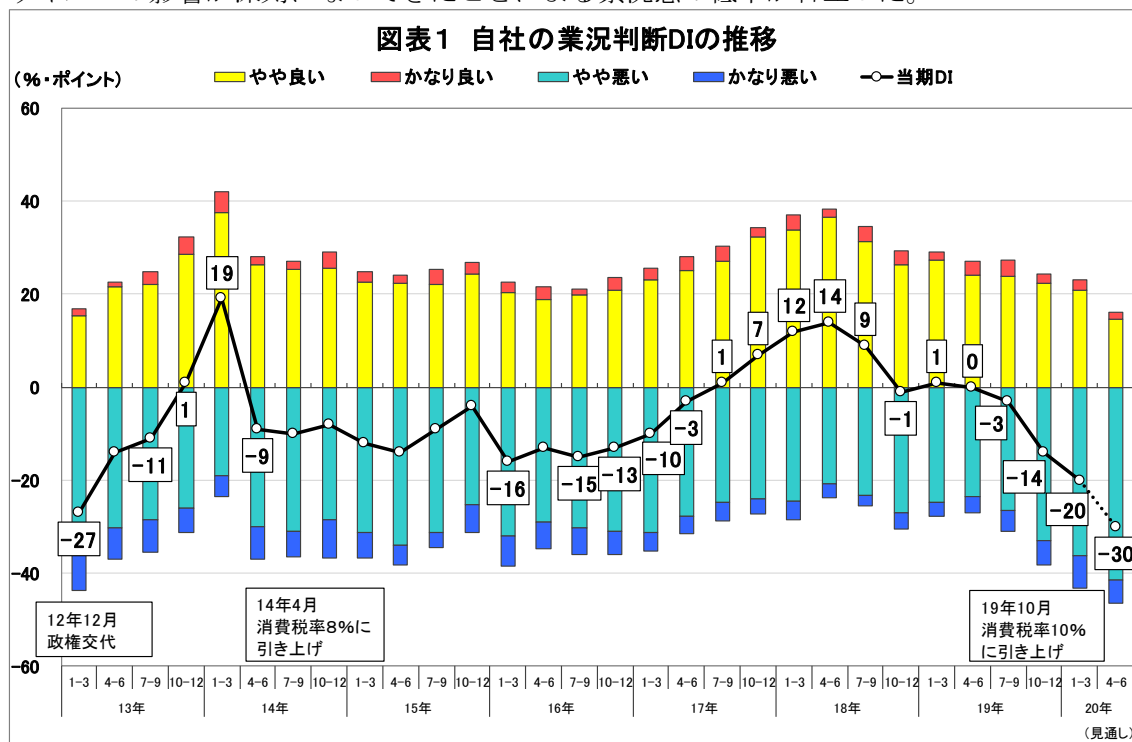
製造業は5四半期連続、非製造業は2四半期連続のマイナス

1. 全体の動向 (図1-1)

今回の調査(20年1-3月期)での自社の業況判断DIは前回(19年10-12月期)の-14から6ポイント低下の-20となり、3四半期連続でマイナス水準となり、13年第1四半期(-27)以来、実に7年ぶりの-20以下という大幅マイナスとなった。

3カ月後(20年4-6月期)は、全体で10ポイント低下の-30とマイナス幅がさらに拡大する見通しとなった。

昨年10月の消費増税、米中貿易摩擦、記録的な暖冬に加えて、調査期間中に新型コロナウイルスの影響が深刻になってきたことによる景況感の低下が目立った。



2. 業種別の動向 (図1-2、表1)

業種別にみると、製造業は、前回の-24から4ポイント低下の-28となり、マイナス幅が拡大、5四半期連続でマイナス水準となった。化学(-25→+14)はマイナス水準からプラス水準に回復。一般機械(+8→+38)はプラス幅が大幅に拡大、繊維(-57→-27)はマイナス幅が縮小した。一方、食料品(-33→-55)、金属製品(-18→-38)、電気機械(-25→-50)、輸送用機械(-20→-25)、その他の製造業(-32→-52)はマイナス幅が拡大した。

3カ月後の製造業全体は、現在から8ポイント低下の-36となる見通しである。

非製造業は、前回の-5から9ポイント低下し-14となり、2四半期連続でマイナス水準となった。建設(+15→+19)、不動産(+27→+22)はプラス水準を維持した。一方、卸売(-7→-26)、運輸・通信(-20→-27)、その他の非製造業(-36→-45)はマイナス幅が拡大、サービス(0→-28)はもちあいからマイナス水準に低下、小売(-50→-47)はマイナス幅がやや縮小も低迷が続いている。

3カ月後の非製造業全体は、現在から12ポイント低下の-26となる見通しである。

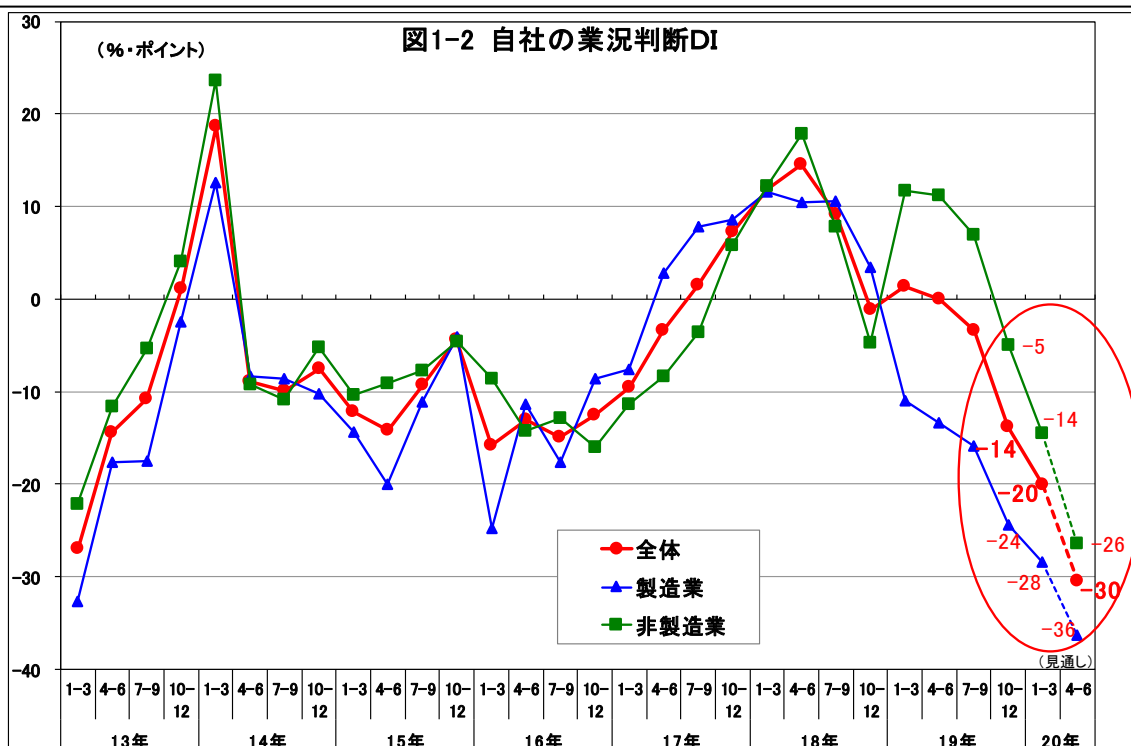


表1 自社の業況判断DI(業種別)

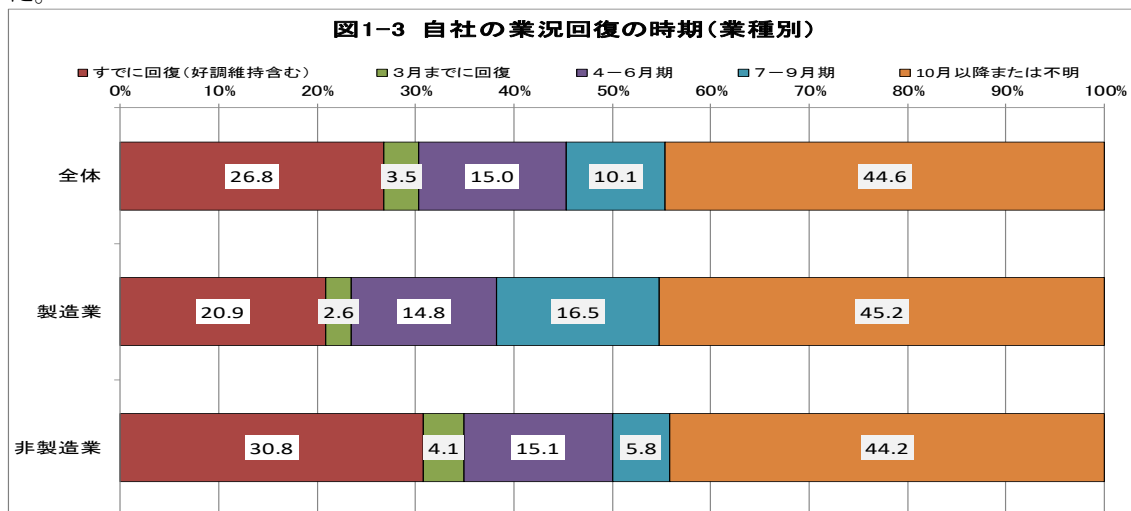
業種(※1)	今回の回答社数	19年 10-12月期 前回	20年 1-3月期 今回(※2)	20年 4-6月期 見通し
全体	303	-14	-20 (-17)	-30
製造業	123	-24	-28 (-24)	-36
繊維	15	-57	-27 (-36)	-33
木材・木製品	7	-13	-14 (-50)	-71
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	7	-25	14 (-43)	0
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	6	-25	-17 (-38)	-17
鉄鋼	×	×	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	11	-33	-55 (22)	-55
金属製品	21	-18	-38 (-24)	-52
一般機械	8	8	38 (8)	-63
電気機械	12	-25	-50 (-33)	-42
輸送用機械	4	-20	-25 (-40)	0
精密機械	×	×	×	×
その他の製造業	25	-32	-52 (-22)	-17
非製造業	180	-5	-14 (-11)	-26
建設	54	15	19 (0)	-13
不動産	9	27	22 (0)	11
卸売	34	-7	-26 (-25)	-39
小売	30	-50	-47 (-33)	-33
運輸・通信	11	-20	-27 (-10)	-36
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	25	0	-28 (-3)	-28
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	11	-36	-45 (-14)	-45

(※1) 回答数が3社以下の業種は非表示(×)

(※2) ()内の数値は前回調査時点での1-3月期の見通し

(2) 自社の業況回復の時期…「すでに回復」(3月までに回復を含む)は3割強(図1-3)

自社の業況回復の時期をみると、「すでに回復(好調維持を含む)」した企業の割合は26.8%で、「3月まで」(3.5%)を合わせると30.3%となり、前回(41.8%)より11.5ポイントの大幅な低下となった。一方、半年以上先の「20年10月以降(不明を含む)」は44.6%で、前回(36.4%)より8.2ポイント上昇した。業種別では、「すでに回復(3月までに回復を含む)」した企業の割合は、製造業は23.5%、非製造業は34.9%で非製造業の方が多くなった。



2. その他の判断項目

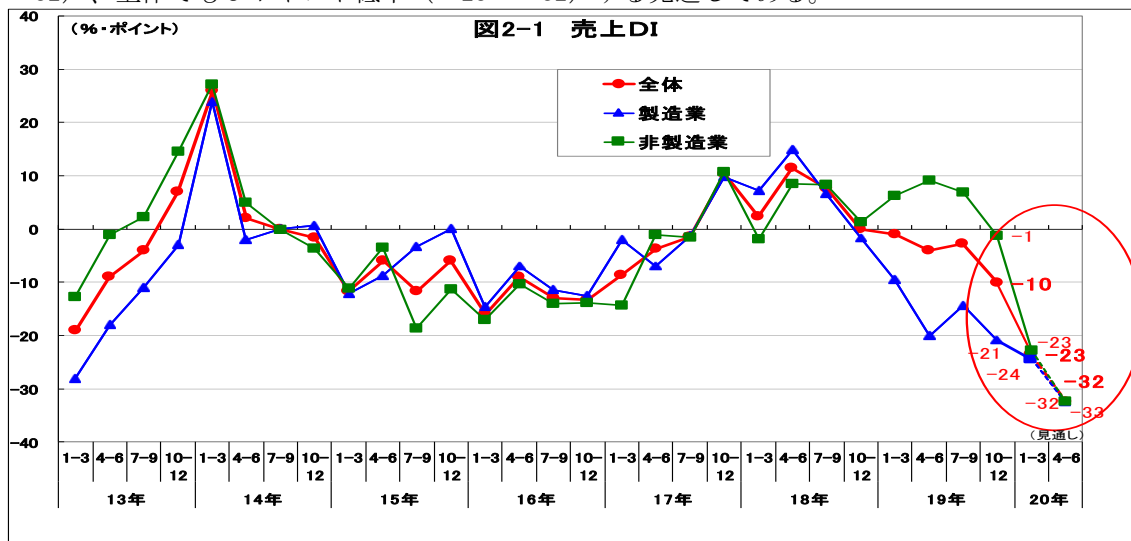
(1) 売上DI…5四半期連続でマイナス水準(図2-1)

現在の売上DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-23で、前回の-10から13ポイント低下し、5四半期連続でマイナス水準(「減少」超過)となった。

業種別では、製造業は-21から-24に3ポイント低下した。一般機械(+8→+13)はプラス水準を維持、輸送用機械(-20→0)はマイナス水準からもちあいに回復するも、化学(+25→0)はプラス水準からもちあいに低下、食料品(-45→-64)、金属製品(-35→-38)、電気機械(-36→-50)、その他の製造業(-14→-16)はマイナス幅が拡大した。

非製造業は-1から-23に22ポイント低下した。不動産(+27→0)はプラス水準からもちあいに低下、卸売(+24→-12)、サービス(+3→-25)はプラス水準からマイナス水準に低下、建設(-6→-14)、小売(-25→-53)、その他の非製造業(-21→-27)はマイナス幅が拡大、運輸・通信(-20→-20)は前回と同水準となった。

3カ月後は、製造業は9ポイント低下(-24→-33)、非製造業は9ポイント低下(-23→-32)、全体でも9ポイント低下(-23→-32)する見通しである。

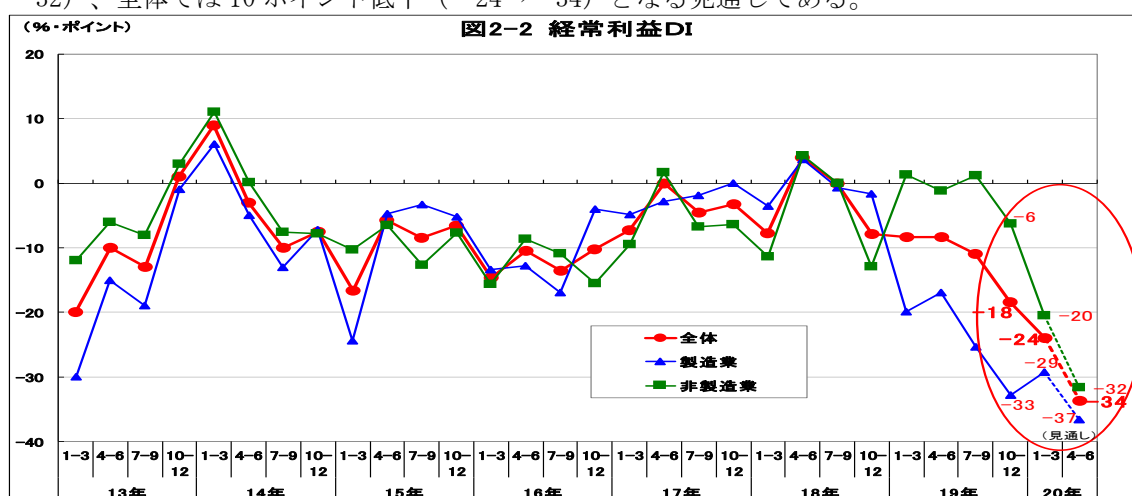


(2) 経常利益DI…6ポイント低下、6四半期連続のマイナス水準(図2-2)

現在の経常利益DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-24で、前回(-18)から6ポイント低下し、6四半期連続のマイナス水準となった。

業種別にみると、製造業(-33→-29)は4ポイント上昇も、7四半期連続でマイナス水準となった。化学(-50→+29)、一般機械(-8→+13)はマイナス水準からプラス水準に回復も、窯業・土石(+13→-17)はプラス水準からマイナス水準に低下、食料品(-33→-55)、金属製品(-24→-43)、電気機械(-27→-42)、その他の製造業(-32→-36)などはマイナス幅が拡大した。繊維(-43→-27)、木材・木製品(-50→-29)はマイナス幅縮小も低迷が続いている。非製造業(-6→-20)は14ポイント低下し、2四半期連続でマイナス水準となった。卸売(+21→-26)はプラス水準からマイナス水準に低下、不動産(+20→0)はプラス水準からもちあいに低下した。小売(-13→-47)、運輸・通信(-30→-50)などはマイナス幅が拡大した。建設業(-13→-4)、その他の非製造業(-23→-18)はマイナス幅が縮小した。

3カ月後は、製造業は8ポイント低下(-29→-37)、非製造業は12ポイント低下(-20→-32)、全体では10ポイント低下(-24→-34)となる見通しである。

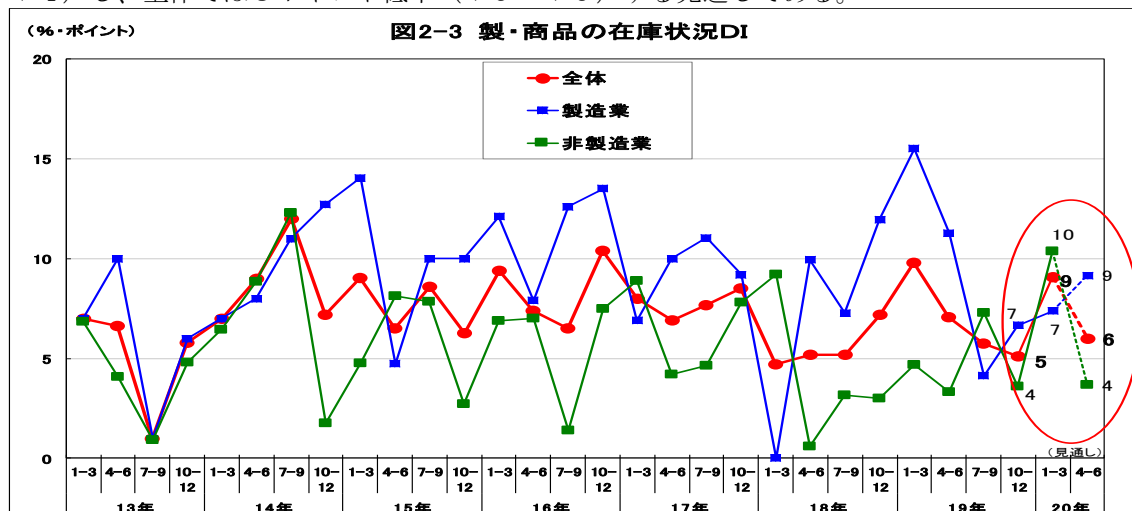


(3) 製・商品の在庫状況DI…4ポイント上昇(図2-3)

現在の製・商品の在庫状況DI(「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は+9で、前回(+5)から4ポイント上昇した。

業種別にみると、製造業は前回と同水準(+7→+7)となった。繊維(+29→+40)、食料品(-22→+9)、輸送用機械(0→+25)などで過大感が強まり、化学(-22→-29)、一般機械(-8→-13)などは不足感が強まった。非製造業は6ポイント上昇(+4→+10)した。卸売(+17→+35)、小売(+7→+14)などで過大感が強まった。

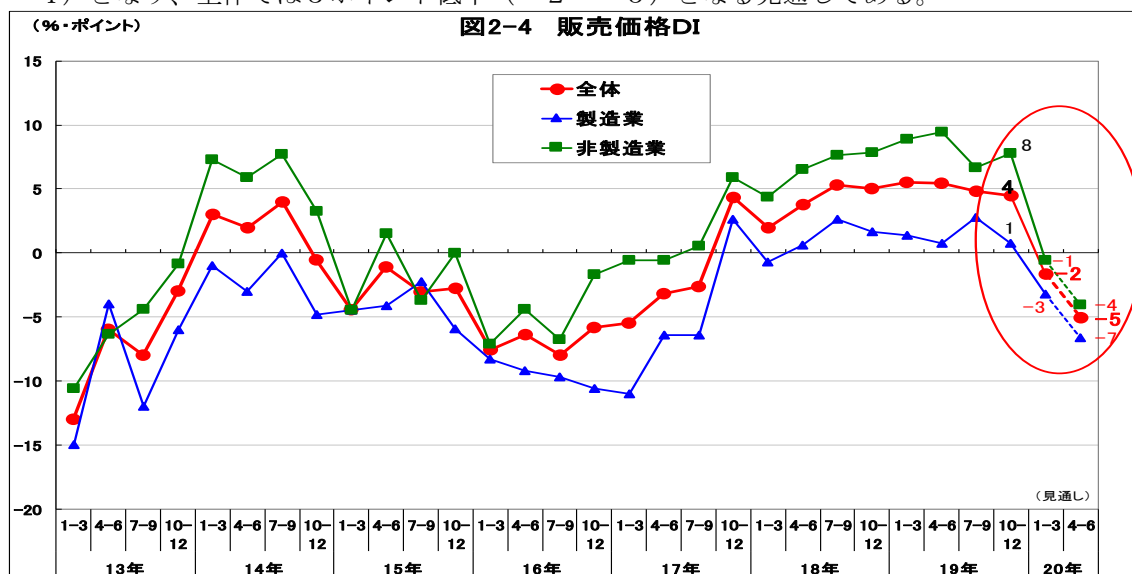
3カ月後は、製造業は2ポイント上昇(+7→+9)、非製造業は6ポイント低下(+10→+4)し、全体では3ポイント低下(+9→+6)する見通しである。



(4) 販売価格DI…10 四半期ぶりにマイナス水準に低下(図2-4)

現在の販売価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は-2で、前回（+4）より6ポイント低下し、10 四半期（2年半）ぶりにマイナス水準となった。業種別にみると、製造業は4ポイント低下（+1→-3）した。木材・木製品（+25→+14）、化学（+22→+14）、金属製品（+12→-10）などが低下した。非製造業は9ポイント低下（+8→-1）した。不動産（+18→0）、卸売（+21→0）、小売（+13→+3）、サービス（+13→0）などが低下した。

3カ月後は、製造業が4ポイント低下（-3→-7）、非製造業も3ポイント低下（-1→-4）となり、全体では3ポイント低下（-2→-5）となる見通しである。

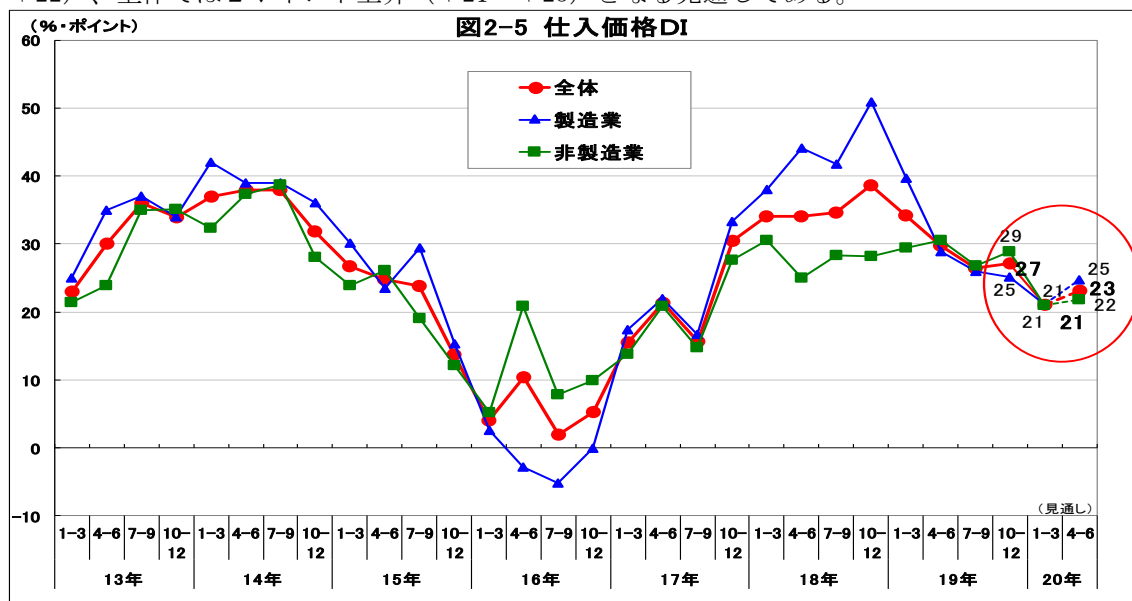


(5) 仕入価格DI…6ポイント低下も、プラス水準(図2-5)

現在の仕入価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は+21で、前回（+27）から6ポイント低下も、プラス水準が続く。

業種別にみると、製造業は4ポイント低下（+25→+21）した。窯業・土石（+13→+33）、輸送用機械（+40→+75）などが上昇、繊維（+29→0）、電気機械（+36→+25）、その他の製造業（+39→+28）などが低下した。非製造業は8ポイント低下（+29→+21）した。建設（+30→+22）、卸売（+35→+21）、小売（+25→+20）、運輸・通信（+44→+38）、サービス（+29→+22）が低下した。

3カ月後は、製造業が4ポイント上昇（+21→+25）、非製造業は1ポイント上昇（+21→+22）、全体では2ポイント上昇（+21→+23）となる見通しである。

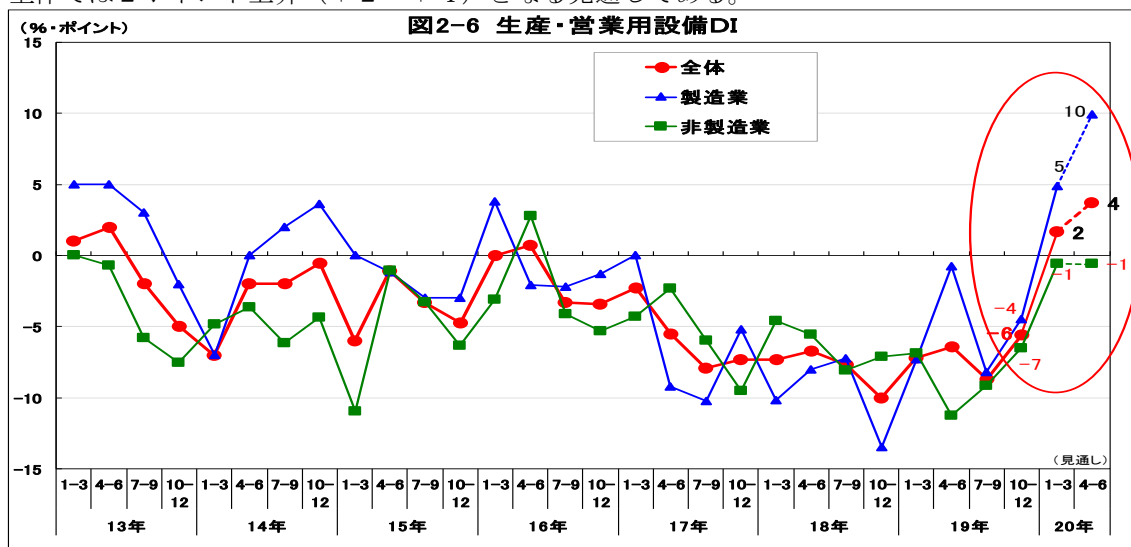


(6)生産・営業用設備DI…15 四半期(4年弱)ぶりにプラス水準(図2-6)

現在の生産・営業用設備DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は、前回（-6）から8ポイント上昇し+2で、15 四半期ぶりに（4年弱）プラス水準になり、過剰感が強くなった。

業種別にみると、製造業は9ポイント上昇（-4→+5）した。木材・木製品（-38→0）、窯業・土石（-13→0）、輸送用機械（-40→0）などは不足感が解消、食料品（+22→0）、などは過剰感が解消した。非製造業は6ポイント上昇（-7→-1）した。卸売（-10→+3）、小売（-14→+3）、サービス（-10→+4）などは不足感が解消した。

3カ月後は、製造業は5ポイント上昇（+5→+10）、非製造業は同水準（-1→-1）、全体では2ポイント上昇（+2→+4）となる見通しである。

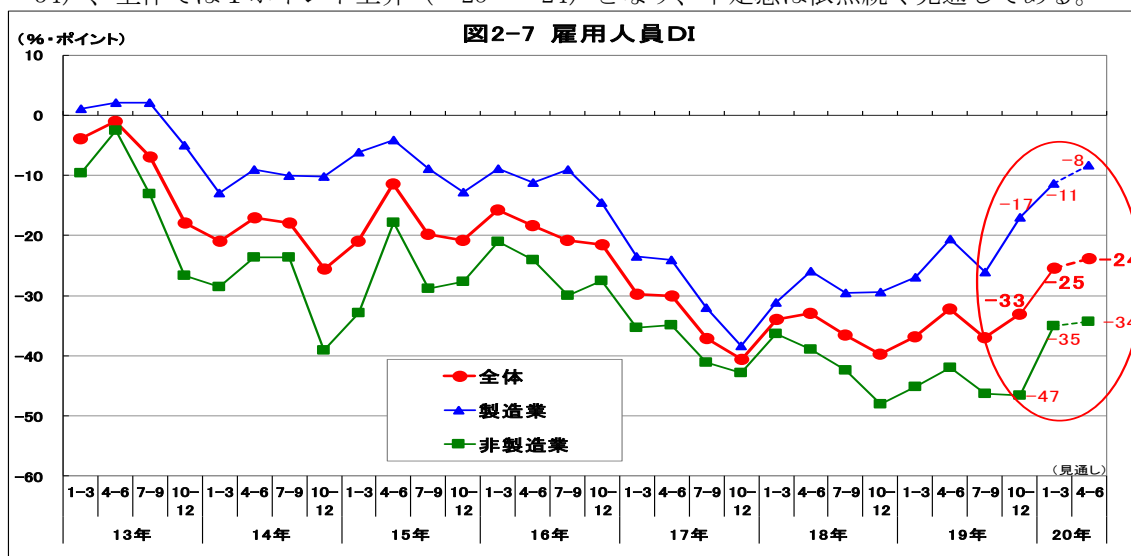


(7)雇用人員DI…不足感が縮小するも、31 四半期(8年弱)連続のマイナス水準(図2-7)

現在の雇用人員DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は-25 と前回の-33 から8ポイントマイナス幅が縮小するも、12 年7-9月期から31 四半期連続（8年弱）でマイナス水準（人手不足）の状況が続いている。

業種別にみると、製造業は6ポイント上昇（-17→-11）した。繊維（-14→0）、化学（-33→-14）、輸送用機械（-80→-25）などで不足感が弱まり、木材・木製品（-13→-29）、一般機械（0→-13）などで不足感が強まった。非製造業は12ポイント上昇（-47→-35）した。建設（-68→-71）は不足感がさらに強まるも、小売（-63→-33）、運輸・通信（-50→-9）、サービス（-50→-27）などは不足感が弱まった。不動産（-9→+22）は不足から過剰となった。

3カ月後は、製造業は3ポイント上昇（-11→-8）、非製造業は1ポイント上昇（-35→-34）、全体では1ポイント上昇（-25→-24）となり、不足感は依然続く見通しである。



3. 設備投資の実施状況

(1)設備投資の実施割合…3四半期連続で50%超(図3-1、表2)

今期(1-3月期)に設備投資を実施した(する)企業の割合は52%で、前回(19年10-12月期)51%から1ポイント上昇、3四半期連続で50%超となった。

業種別にみると、製造業は50%で、前回(54%)より4ポイント低下した。木材・木製品(25%→43%)、窯業・土石(50%→100%)などが上昇し、一般機械(75%→43%)、その他の製造業(64%→38%)などが低下した。非製造業は53%で前回(48%)より5ポイント上昇した。建設(47%→59%)、卸売(29%→56%)などが上昇し、不動産(36%→22%)、サービス(74%→50%)などが低下した。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が42%、非製造業が41%で全体では42%と、50%を下回る見通しである。

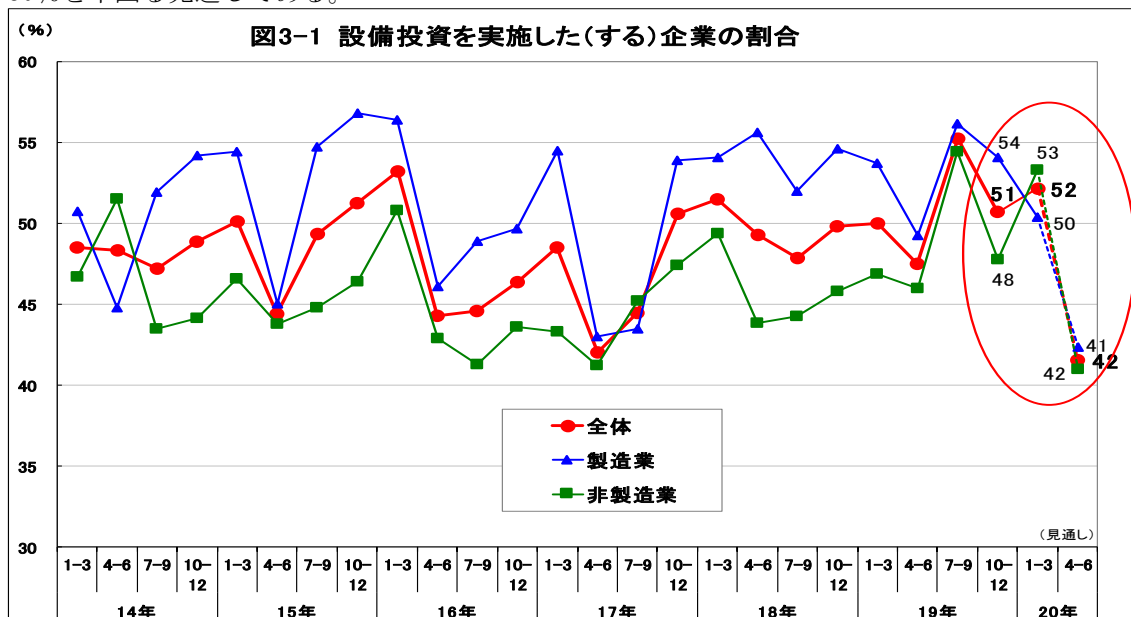


表2 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細) (%)

業種(※)	19年 10-12月期 前回	20年 1-3月期 今回	20年 4-6月期 見通し
全体	51	52	42
製造業	54	50	42
繊維	43	47	69
木材・木製品	25	43	14
紙・パルプ	×	×	×
化学	56	71	43
石油・石炭	×	×	×
窯業・土石	50	100	83
鉄鋼	×	×	×
非鉄金属	×	×	×
食料品	44	45	55
金属製品	59	52	29
一般機械	75	43	29
電気機械	55	42	17
輸送用機械	100	100	100
精密機械	×	×	×
その他の製造業	64	38	33
非製造業	48	53	41
建設	47	59	35
不動産	36	22	22
卸売	29	56	47
小売	33	43	41
運輸・通信	80	91	36
電気・ガス	×	×	×
サービス	74	50	56
リース	×	×	×
その他の非製造業	39	30	30

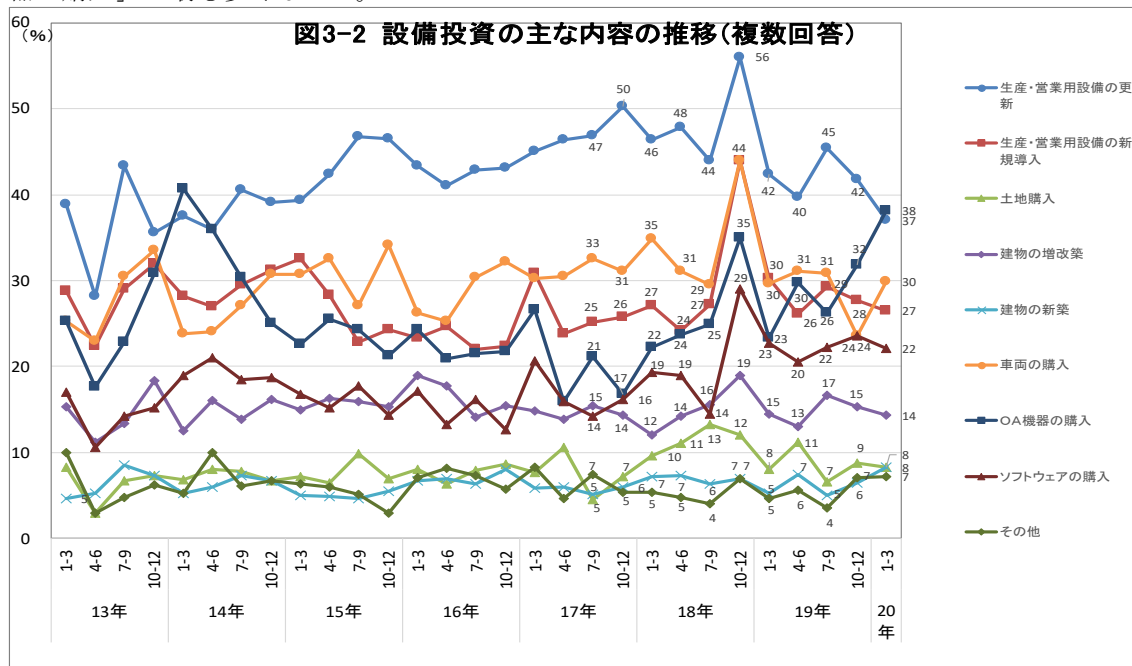
(※)回答数が3社以下の業種は非表示

(2)設備投資の主な内容…「OA機器の購入」が24四半期ぶり(6年)のトップ

1. 全体の動向 (図3-2)

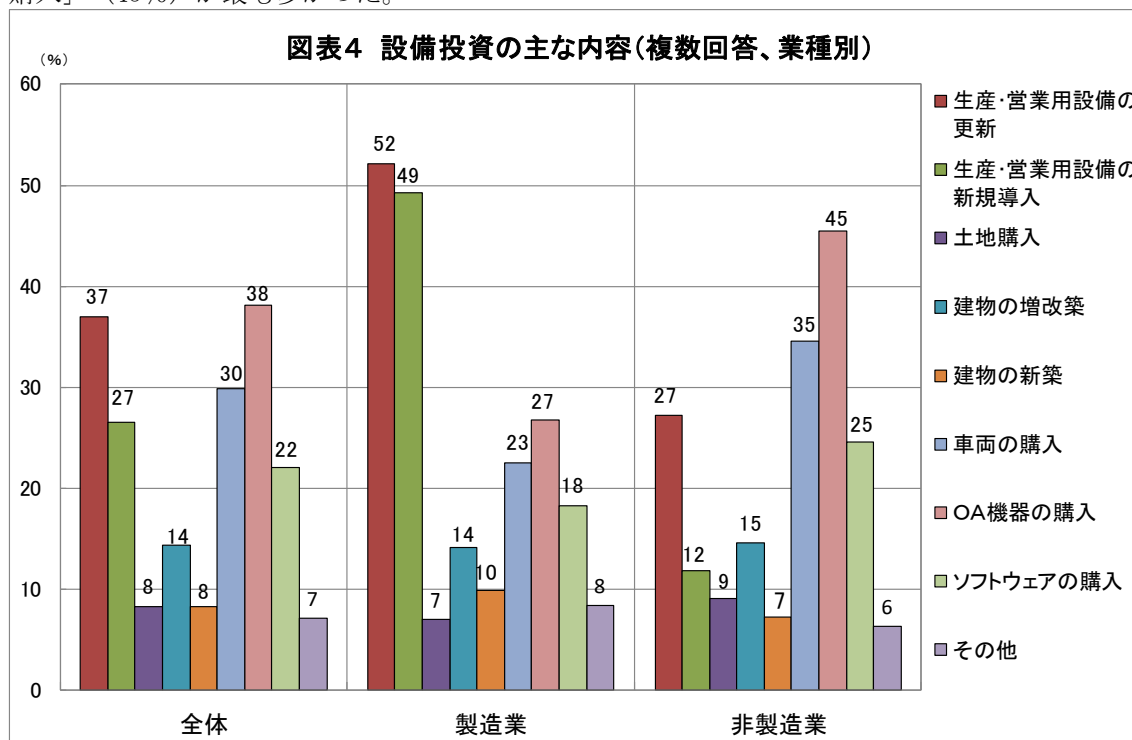
設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「OA機器の購入」(38%)が24四半期(6年)ぶりに最も多くなった。次いで「生産・営業用設備の更新」(37%)、「車両の購入」(30%)、「生産・営業用設備の新規導入」(27%)、「ソフトウェアの購入」(22%)と続いた。

「OA機器の購入」は、Windows 7の製品サポート終了に伴うパソコンの買替等が考えられる。2014年第1四半期もWindows XPのサポート終了に伴うパソコンの買替需要等で「OA機器の購入」が最も多くなった。



2. 業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(52%)、非製造業は「OA機器の購入」(45%)が最も多かった。



1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

【製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
繊維	・営業利益が好調な状態が複数年続いている。
木材・木製品	・比較的大型の案件の受注が有り、売上が18%程度増加する予想(対前年比)。
化学	・公共事業絡みの生産が例年より増加したため、加工費が増加。但し、売上全体では横ばいである。
窯業・土石	・災害復旧などの影響。
金属製品	・海外向け石油化学プラント関連の受注で売上が約10%増加した。 ・かねてより主要得意先以外での受注の種まきを行ってきたが、その結果が少しずつ出はじめている。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
繊維	・米中貿易摩擦の影響。 ・衣料織物は2~3年前から悪化(衣料15%減少)、資材織物は昨年から急に悪化した。
化学	・新製品の販売が遅れ採算面が低迷。
窯業・土石	・米中貿易摩擦の影響、中国経済減速によるもので、7%程度の売上減少。
食料品	・消費増税の影響で外食産業への売上が10%弱減少した。 ・新型コロナウイルスに伴う観光客の減少。 ・主要取引先での供給の落込みで売上が大幅減。
金属製品	・米中摩擦、中東情勢他突発要因とこれまでの急成長の反動による一服感から全世界で市場が低迷、売上が10%程度減少。 ・ソーラーパネル製品の検査業務が無くなり売上減少(13.9%)。 ・去年10月以降、売上が低迷、新規の商談がない。 ・中国からの部品が入荷できないため(入荷日未定)、出荷停止のものが出る可能性あり。
電気機械	・国内の設備投資は減少方向。 ・世界の自動車市場で新車販売が低迷。米中貿易摩擦、新型コロナウイルス等の影響で車載電球部材の売上が約30%減少。
その他の製造業	・前期中は売上微増も1月は反動で微減。 ・2月以降新型コロナウイルスの動向によって先が読めない。 ・食品ロス及び米中貿易摩擦の影響で売上が15%減少した。 ・新型コロナウイルスの影響で中国2か所の工場の稼働日数が少なく、日本(本社)からの原材料の輸出も減少し、減収減益を余儀なくされる。 ・消費増税の影響で売上減少。

「滋賀県内企業動向調査 2020年1-3月期 定例項目結果」

【非製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック関連で自社技術の売上増。 ・今期(7月～11月)の販売累計は前年比109%。 ・滋賀県内の受注が増え、利益率が上がった。 ・新規受注好調。
卸売	<ul style="list-style-type: none"> ・異常ともいえる暖冬の影響で、真冬には釣れない魚が釣れている。また、暖かいので人出も良い。 ・建築板金資材の売上が10%増加。
小売	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の消費増税前駆け込み需要とパソコン入替需要が増加した原因。 ・新商品企画の影響でスイーツ部門の売上が急増した。
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> ・主取引の安定、倉庫部門の安定。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・公共事業の営業状況。
不動産	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年1月の投資による賃貸収入の大幅アップ。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> ・消費増税の駆け込み需要の反動で売上が30%減少した。 ・少雪等の影響でメンテナンスの時期延期、規模縮小、スキー場客先の業績悪化。 ・中国経済減速懸念で設備投資意欲が少ない。 ・公共工事の発注なし(造園)。
卸売	<ul style="list-style-type: none"> ・買取市場の機械数減少、海外市場の値崩れ。 ・暖冬の影響による需要減少。 ・冬の需要期に気温が下がらず雪が降らないため、仕事量が3割程度落ち込んでいる。 ・海外取引など新規売上は増加しているが、酒類市場が年々悪化しているため、それ以上に既存売上が減少している。 ・新型コロナウイルスの影響で商品の調達・仕入が販売予定数に届かないため。
小売	<ul style="list-style-type: none"> ・消費増税前の駆け込み需要による売上増加の反動と暖冬による低迷。 ・インターネット販売の影響でガス器具の売上が10%減少。 ・暖冬の影響で灯油が売れない。 ・消費税増税の影響、新型コロナウイルスの影響。 ・新型コロナウイルスの影響で外出控える方多く、客数減が続いている現状。 ・米中摩擦で荷物減少。 ・世界の情勢や韓国の不買運動等により荷物の動きが少なくなっている。
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> ・団体予約(インバウンド・国内旅行)のキャンセルが新型コロナウイルスの影響で出始めている。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響でインバウンドの減少と国内旅行も出控え傾向。 ・新型コロナウイルスの影響で中国インバウンドの宿泊がなくなった。 ・消費増税の影響で家庭市場での売上が5%減少した。 ・大手企業内社員食堂の給食提供業務であり、企業内の事業部移動、人事異動による食堂利用者数の増減が業況を左右する。

「滋賀県内企業動向調査 2020年1-3月期 定例項目結果」

2. DI回答一覧(業種別)

項目	業況判断DI				売上				仕入価格				販売価格			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	19年	20年	20年	20年	19年	20年	20年	20年	19年	20年	20年	20年	19年	20年	20年	20年
調査時期	10-12	1-3	1-3	4-6	10-12	1-3	1-3	4-6	10-12	1-3	1-3	4-6	10-12	1-3	1-3	4-6
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-14	-17	-20	-30	-10	-11	-23	-32	27	25	21	23	4	-1	-2	-5
製造業	-24	-24	-28	-36	-21	-17	-24	-33	25	23	21	25	1	-5	-3	-7
繊維	-57	-36	-27	-33	-22	0	-20	-40	29	21	0	27	7	7	7	0
木材・木製品	-13	-50	-14	-71	-38	-38	-14	-71	13	38	14	14	25	-13	14	0
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	-25	-43	14	0	25	0	0	-14	22	0	14	14	22	-13	14	-14
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	-25	-38	-17	-17	0	0	-33	0	13	13	33	33	0	0	0	0
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-33	22	-55	-55	-45	11	-64	-45	33	33	27	9	11	11	0	0
金属製品	-18	-24	-38	-52	-35	-35	-38	-71	24	18	24	19	12	-12	-10	-10
一般機械	8	8	38	-63	8	-17	13	-25	8	8	13	25	0	0	0	0
電気機械	-25	-33	-50	-42	-36	-27	-50	-33	36	36	25	42	-18	-18	-8	0
輸送用機械	-20	-40	-25	0	-20	20	0	0	40	40	75	75	-20	-20	-50	0
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	-32	-22	-52	-17	-14	-11	-16	0	39	36	28	30	-14	-7	-12	-17
非製造業	-5	-11	-14	-26	-1	-6	-23	-32	29	27	21	22	8	2	-1	-4
建設	15	0	19	-13	-6	-10	-14	-29	30	36	22	22	-2	-6	-5	-11
不動産	27	0	22	11	27	0	0	0	11	10	13	-13	18	10	0	-11
卸売	-7	-25	-26	-39	24	-7	-12	-35	35	25	21	24	21	14	0	-3
小売	-50	-33	-47	-33	-25	-13	-53	-37	25	13	20	33	13	0	3	10
運輸・通信	-20	-10	-27	-36	-20	-10	-20	-40	44	44	38	38	0	-11	0	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	0	-3	-28	-28	3	9	-25	-29	29	18	22	14	13	7	0	-8
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-36	-14	-45	-45	-21	-7	-27	-45	11	33	14	14	-10	0	0	11

項目	経常利益				製・商品の在庫				生産・営業用設備				雇用人員			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	19年	20年	20年	20年	19年	20年	20年	20年	19年	20年	20年	20年	19年	20年	20年	20年
調査時期	10-12	1-3	1-3	4-6	10-12	1-3	1-3	4-6	10-12	1-3	1-3	4-6	10-12	1-3	1-3	4-6
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-18	-19	-24	-34	5	1	9	6	-6	-5	2	4	-33	-34	-25	-24
製造業	-33	-28	-29	-37	7	-1	7	9	-4	-4	5	10	-17	-17	-11	-8
繊維	-43	-14	-27	-40	29	7	40	47	14	7	13	27	-14	-21	0	0
木材・木製品	-50	-38	-29	-71	0	-13	0	14	-38	-25	0	0	-13	-25	-29	-14
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	-50	-57	29	0	-22	-13	-29	0	-11	0	0	0	-33	-13	-14	-14
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	13	-13	-17	-17	-25	-25	-17	-17	-13	-13	0	0	0	-13	0	17
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-33	11	-55	-36	-22	9	18	22	22	11	0	18	-11	22	0	9
金属製品	-24	-35	-43	-67	12	-6	5	-10	12	12	10	14	-12	-24	-5	-14
一般機械	-8	-25	13	-25	-8	8	-13	0	-8	0	-13	0	0	8	-13	0
電気機械	-27	-18	-42	-50	27	18	25	25	0	0	8	8	-18	-9	-17	-8
輸送用機械	-80	-80	-75	-25	0	0	25	25	-40	-60	0	0	-80	-80	-25	0
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	-32	-21	-36	-14	11	0	4	0	-11	-11	8	4	-25	-25	-16	-22
非製造業	-6	-11	-20	-32	4	2	10	4	-7	-5	-1	-1	-47	-48	-35	-34
建設	-13	-17	-4	-26	-7	-7	0	2	-4	-4	-4	0	-68	-70	-71	-65
不動産	20	9	0	11	-11	0	0	0	0	0	0	0	-9	-10	22	22
卸売	21	-7	-26	-41	17	11	35	24	-10	-4	3	3	-28	-36	-18	-18
小売	-13	0	-47	-37	7	14	14	-3	-14	-15	3	0	-63	-40	-33	-33
運輸・通信	-30	-20	-50	-70	11	11	-13	-13	0	0	-9	-9	-50	-50	-9	-9
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	-13	-9	-15	-23	4	0	10	-5	-10	-13	4	0	-50	-53	-27	-36
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-23	-15	-18	-36	0	-13	0	-13	0	8	-11	-11	-22	-29	-9	-18

※ 回答数が3社以下の業種は非表示 (Xと表示)